

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		こもれび通所支援事業所（放課後等デイサービス）		公表日		2025年5月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	・大幅に広くはないが空間を使い分けながら過ごしやすいよう配慮している。 ・活動ごとに遊びの環境を作っている。	引き続き利用児童の状況に合わせた支援スペースの確保に努める。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	・職員配置数は、常に人員配置基準よりも多い。(手厚い対応ができるようにしている。)	理学療法士、保育士、児童指導員、などの資格者を配置	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	階段の滑り止め、転落防止、子ども達が「見て分かる」環境を作るよう、職員間で話し合いながら視覚支援の構造化を図っている。	状況に応じて日々安全確認を行い、視覚化等の工夫を行なっていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	・日々の掃除、消毒は徹底している。 ・パーティションで区切るなどコーナーづくりを工夫し、落ち着ける環境攻勢に努めている。 ・場面によって物を移動させたり、片付けをする等して環境を整えるようにしている。	引き続き清潔な環境を維持していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	クールダウンしたり、落ち着いて過ごせる空間を作れるようパーティションや室内用テントなどアイテムを用意している。	引き続き個別対応のできる部屋を確保する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	・職員全員参加型のミーティングをその都度行っている。 ・くり返し計画を練り、全員で振り返りをしている。	引き続き実行していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・年に1回の自己評価結果の公表前に保護者にアンケートを行い、ご家族のご意見を元に職員間で認識共有、改善を図るようにしている。改善点はホームページ上に自己評価結果表を公表し、伝えられるようにしている。 ・ミーティングで話し合う機会がある。	引き続き保護者の意向を確認し、改善していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	・ミーティング等で職員からの子ども達の支援に対する悩みや疑問、業務に関する不安などを出し合い、話し合いができるようにしている。 ・気になることを上司に聞くことができる。(疑問、不安など)	引き続き職員の面談を設け、個別での擦り合わせを継続していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4	よくわからない	今後、第三者による評価を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・職員は希望すれば受講させてもらえる。社内でも研修が行われている。 ・研修報告で職員全員に共有される。 ・令和6年度は正社員を中心に外部研修に参加、受講することができ、内部研修も取り組んでいる。	引き続き、研修の機会を設ける他、常に制度や支援方法のアップデートを行う。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	令和6年度からの取り組みで、職員には9月に周知している。	定期的に支援プログラムと支援の実態があっているかの確認を行う。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	・利用契約時の聞き取り面接で、子ども一人ひとりの発達や育成歴、生活環境、ご家族のニーズなどを丁寧に聞き取り（モニタリング）、アセスメントの作成を行っている。アセスメントを元に個別支援計画を作成している。	引き続き制度に基づく支援計画の作成に取り組む。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	・毎月のミーティングで話し合いで行われている。 ・面談で保護者に説明し、同意を得た後で全職員へ周知し、必要に応じてミーティングでも伝えるようにしている。 ・全職員で意見や気づきを出し合い、話し合う機会がある。	引き続き毎日のミーティングを大切に職員間での共有を行う。	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	全職員が各自で個別支援計画を読んで支援を行い、不明な点、分かりにくい部分は児童発達支援管理責任者に確認したり、職員会議で話し合いを行っている。	引き続き、計画に沿った支援を行なっていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	保護者からの聞き取りを基にしたアセスメント、半年の発達の様子の記録と合わせて、子どもの発達状況やその日の様子が分かるようにしている。	引き続き細やかなアセスメント行なっていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	子ども達が育つ力をつける内容とそれを実践する為に必要な留意点を子ども一人ひとりの発達状況やご家族の状況、地域資源の状況に応じて作成している。	移行支援や、地域連携についてさらに工夫できることがないか、内容を深めていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	・月間の予定は管理者が立て、行事や日々のリーダーなどそれぞれの担当者がプログラム内容と日案を立てている。 ・毎年行っている。	引き続き全職員で活動の立案を行なっていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	・子ども達が楽しんで参加できるよう考えられている。また、同じプログラムでも利用する子ども達の顔ぶれによって内容を変えるなど工夫されている。 ・運動、音楽、感覚、製作に分けて活動内容を決定している。各曜日で全ての活動を毎月経験できるよう内容を考えている。	引き続き全職員で活動が固定化しないように話し合いを行なっていく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	毎日のプログラムに集団療育と個別療育が組み込まれているので個別支援計画に盛り込むようにしている。	今後ニーズに応じて個別の対応の質向上に向けて、調整を行なっていく。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	毎日のミーティングにて、利用児童や職員の出勤者の確認、送迎ルートの確認、その日の活動の留意点などの役割分担の確認を行っている。	引き続き毎日のミーティングで確認していく。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	正社員のみでの参加になるが、一日の振り返りや翌日以降の療育内容について話し合うようにしている。	引き続き毎日のミーティングで確認していく。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	・毎日、その日の利用児全員の記録をきちんととっている。 ・日々の記録を現場職員が複数の手で記録し、子どもの発達状況やその日の様子が分かるようにしている。	今後、記録の質の向上に努める。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	・概ね半年に1回、個別支援計画の見直しのモニタリングを職員会議にて行っている。 ・全スタッフで行う。	引き続き、定期的なモニタリングを基に支援計画の更新を行なっていく。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	0	児童発達支援管理責任者が主に連携を図っている。	地域交流活動の回数が少ないため、次年度少しでも多く取り組めるように努力したい。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	児童の気持ちを優先できるよう、幼稚園や保育所、こども園、など各関係機関にいつでも連携が始められる体制づくりをしている。	今後も自己決定をする環境や場面を意識的に作り、その上で選択したことに対するサポートを丁寧に行なっていく。	
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	児童発達支援管理責任者が、会議に参加し、会議内容を共有している。	引き続き同様な対応を行なっていく。
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	日常的に福祉課、こども課(行政)や各学校と連携体制ができている。	引き続き、現行の体制を継続していく。
		28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	必要に応じて会議や顔合わせを行い、送迎調整やトラブル時などその都度、保護者も含め、調整を行なっている。	引き続き密な連絡調整を行う。
		29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	同事業所を卒業した利用者は情報共有がなされています。その他の利用者は必要に応じて情報共有を行っていきます。	今後、該当児童が通所する際は情報共有を行う。
		30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	2	これまでご要望がありませんでしたが、情報提供等をする体制はあります。	今後、該当児童が通所する際は情報共有を行う。
		31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2	相談員などの有識者からスーパーバイズを受けられることがある。	地域の児童発達支援センター等に研修や依頼をしていく。
		32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	6	年に数回児童館と交流プログラムがある。公園等で地域の子供達と交流している。	引き続き事業所以外の地域のこどもと関わる機会を定期的に設ける。

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3	6	・参加していないかも。 ・わからない	参加していくため、市に対して協議会の参加を依頼していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	送迎時に出来事を伝えたり、情報を確認したり、様子を伝えている。	引き続き保護者と共通理解を持てる機会を確保していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	5	保護者むけの研修等の周知を行うことがある	保護者に有益な情報がないか日々情報収集に努め、共有していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	利用契約時や加算等で、負担額に変更がある場合に説明している。	引き続き、丁寧に説明していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	支援計画を作成する際に、面談や本人からの聞き取り等アセスメントしながら日々の支援でもこどもの意向も確認しながら支援を行なっている。	引き続きこどもや保護者の意向を確認しながらサービスの提供にあたる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	1	支援計画の内容を確認してもらい、同意を得ている。内容に変更の希望がある場合は修正している。	引き続き、丁寧に説明し計画の同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	保護者からの希望や、事業所が必要と感じた場合に定期面談とは別で機会を設けて助言や話し合いを行なっている。	引き続き、丁寧な支援を行なっていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	9	令和6年度は開催できていない。	令和7年度に開催できるよう持ち方を検討し計画を進める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1	苦情に対する体制の整備をおこなっている。	常に苦情解決の窓口の体制を確認する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	1	HPやSNSを通じて活動やイベントの様子を発信している。	周知回数を増やすほか、内容も改善を進めていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	ネットやPCにセキュリティをかけている他、紙媒体の資料についてはキャビネットに保管している。	引き続き、十分に注意する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	お子さんや保護者に対して、理解し職員で共有して配慮して情報伝達を行なっている。	引き続き、充分に行き届いた配慮を行う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	8	・地域住民を呼んでの行事等はおこなっていない。 ・わからない	地域施設を利用し関わりを持つよう意思している、地域施設を今後はイベントへの招待など定期的に地域住民が参加できる機会を設けていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1	各マニュアルを策定して、職員に周知している。	今後保護者に周知をする場面を設けていくように努める。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	管理者が、BCPを策定し、定期的に確認、見直しを行なっている。	BCPマニュアルを作成し、研修や実践など計画的に実施している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	与薬を含め保護者からの申し出(医師の指示書通り)の対応を行なっている。	引き続き、定期的に確認を行う。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	定期的に保護者にこどもの状況報告の協力をお願いしている	引き続き、アレルギー対応には十分な注意を払っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	安全マニュアルを作成し、定期的に事業所の安全確認を行なっている。	安全計画を毎年見直し、環境や利用児童にあったものにアップデートしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	安全マニュアルに基づき、保護者との連絡体制について共通認識をもって対応している。	安全マニュアルを周知する機会を定期的に設けていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	・ヒヤリハットはすぐに共有し対応についての検討を行っている。定期的にまとめとしてヒヤリハットを共有し対策後の振り返りを行っている。	引き続き、ヒヤリハットを共有し、対応策の検討を継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	社内の虐待防止研修の他、外部の虐待防止研修に参加する等の機会を設けている。	引き続き、研修を進める他、お互いに日々の虐待防止に向け全員で連携して支援にあたる。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	1	年に2回程ミーティング後に身体拘束の研修をうけている。	今後該当児童を受け入れる場合に、必要な対応を適切に行う。